

資料編

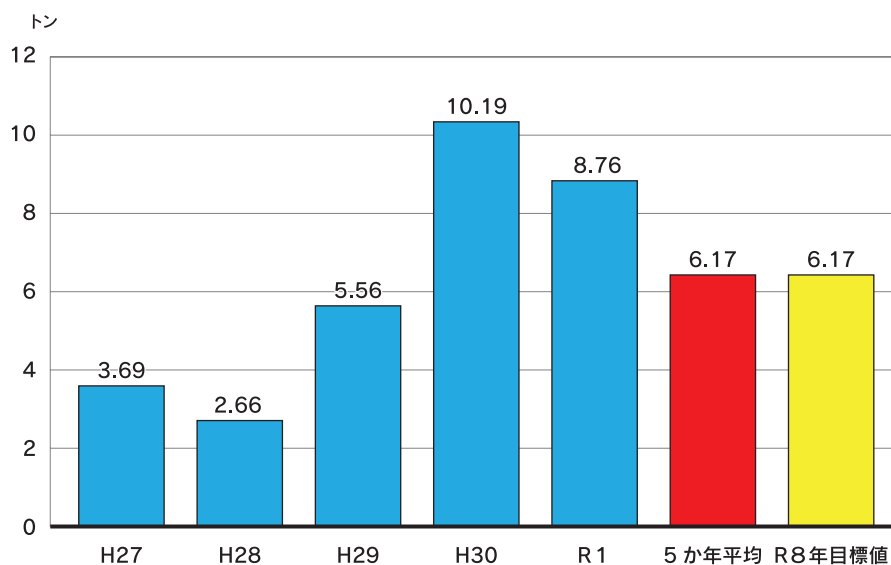
第1 成果指標に関するデータ及び関連データ

<基本方針1>

成果指標に関するデータ

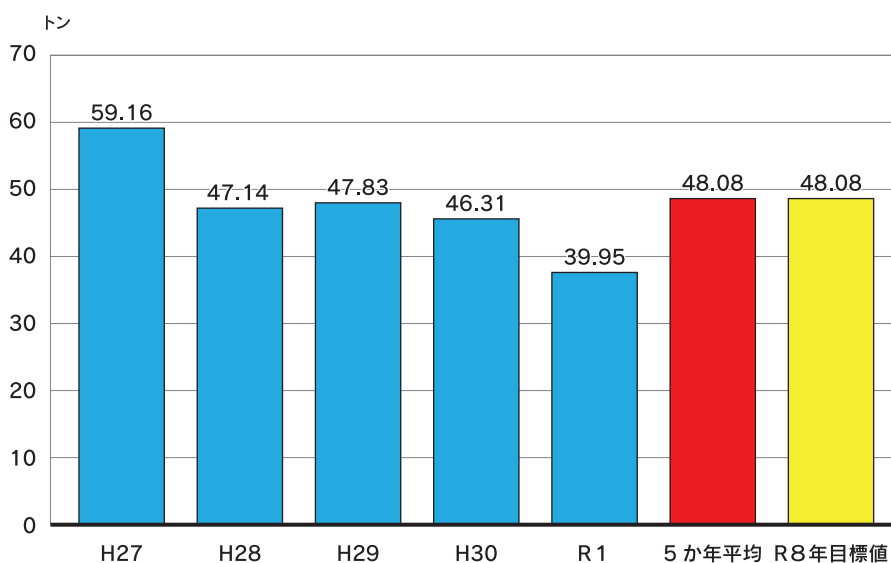
●アワビの生産量の推移

平成27年から令和元年までの5か年のアワビの平均生産量は6.17トンとなり、近年増加傾向にあります。



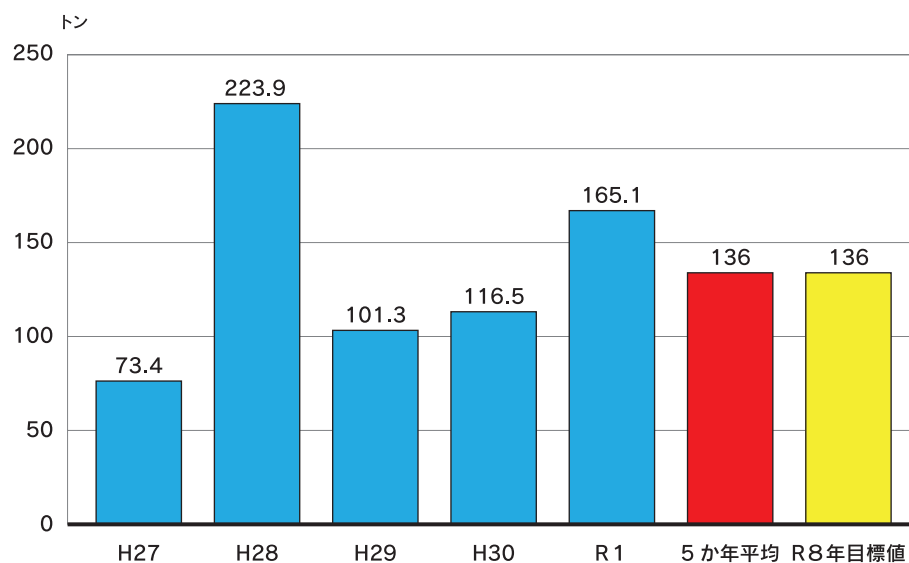
●サザエの生産量の推移

平成27年から令和元年までの5か年のサザエの平均生産量は48.08トンとなり、近年横ばいで推移しています。



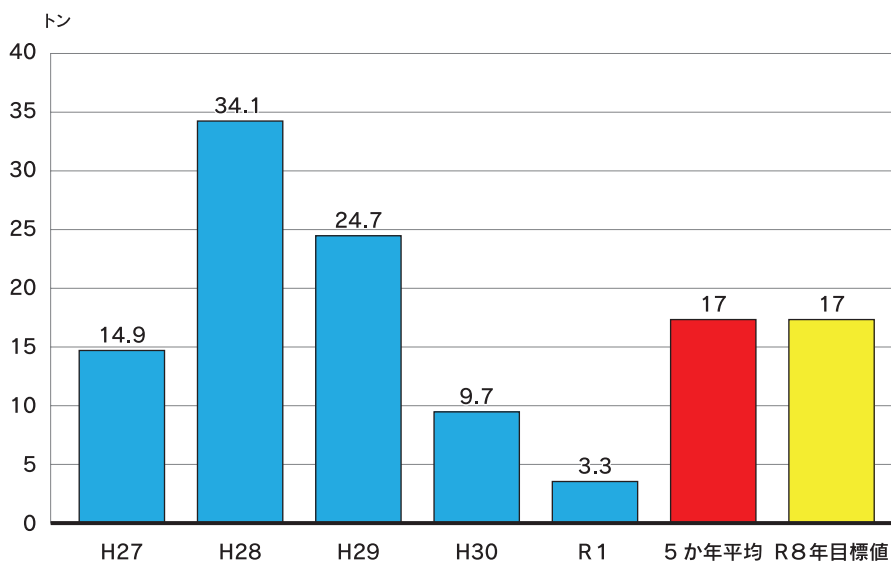
●室見川のアサリ資源量の推移

平成27年から令和元年までの5か年の室見川河口域のアサリの平均資源量は136トンとなり、近年増加傾向にあります。



●多々良川のアサリ資源量の推移

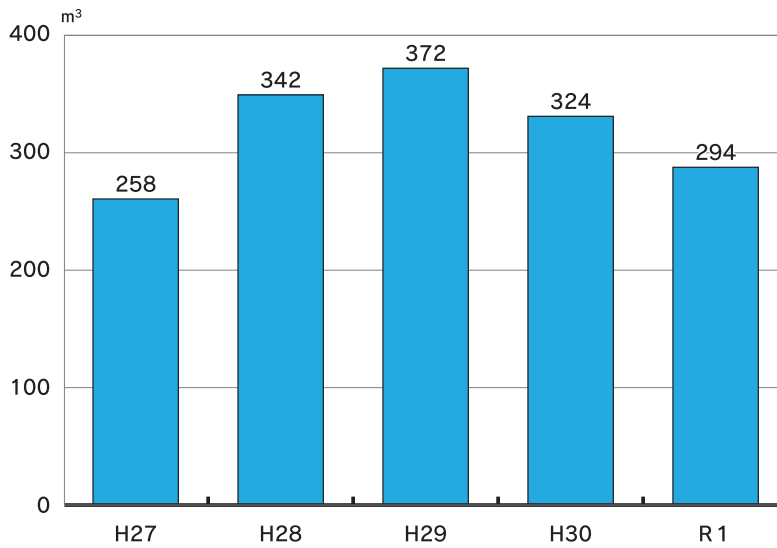
平成27年から令和元年までの5か年の多々良川河口域のアサリの平均資源量は17トンとなり、平成28年以降は減少傾向にあります。



関連データ

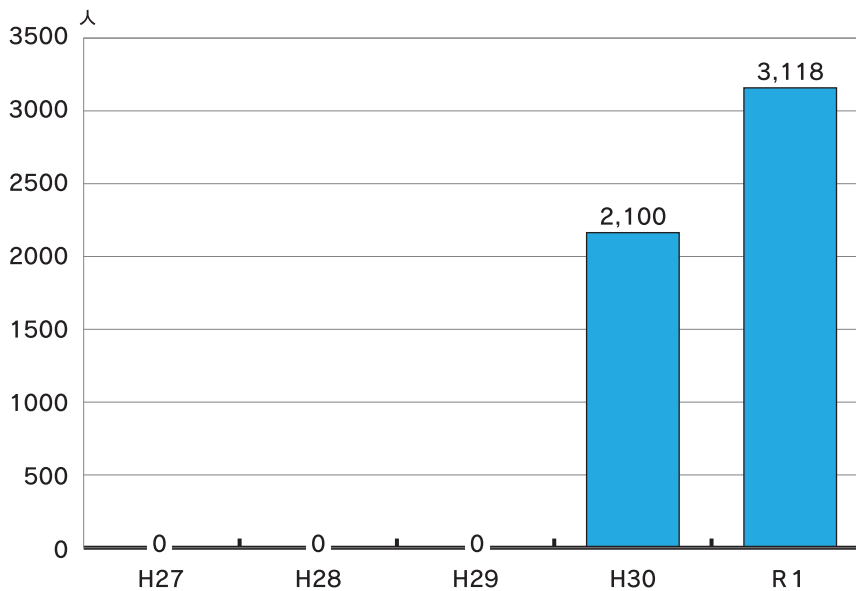
●海底ごみの回収量の推移

漁業者による海底ごみの回収量は、毎年300m³程度で推移しています。



●海洋ごみ削減に関する啓発人数の推移

令和元年の海洋ごみ削減に関する啓発人数は延べ3,118人となっています。

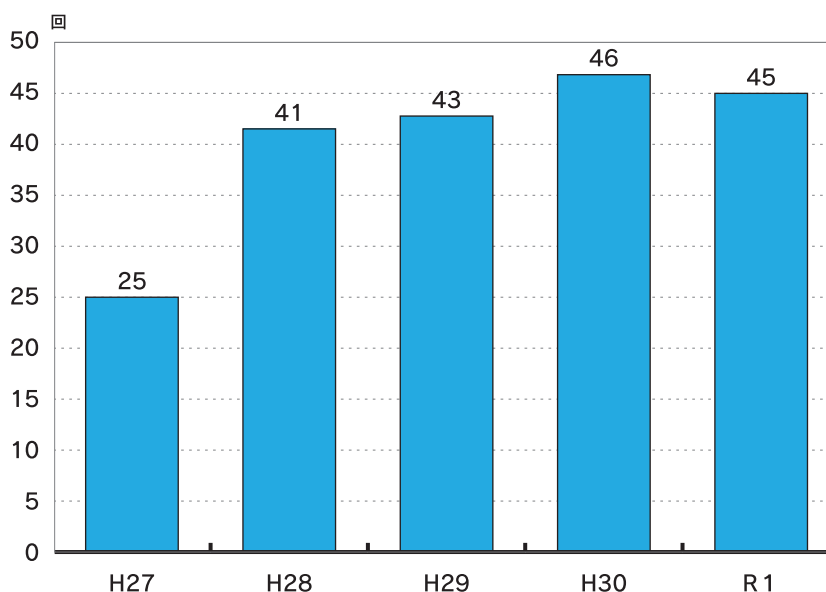


※啓発人数は延べ人数。

※福岡市では、陸域から博多湾に流入するごみを減らし、豊かな博多湾をまもるため、平成30年度から海底におけるごみの状況を映像化したり、NPO等と連携した清掃活動等を実施するなどして、海底ごみやごみそのものを減らす「リデュース」についての市民啓発に取り組んでいます。

●海底耕うんの回数の推移

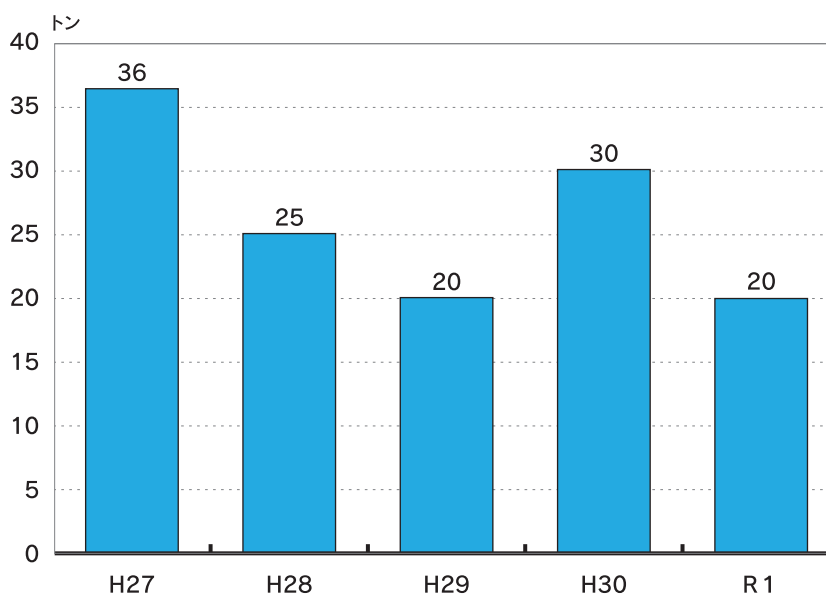
漁業者による海底耕うんの回数は、毎年40回程度となっています。



※海底耕うんとは、漁業者が「桁（けた）」と呼ばれる鉄製の器具をロープに付け海に投入し、漁船で引っ張り海底を耕す作業のことです。海底の泥・砂を掘り起すことによって、海の生き物が生息しやすい環境になると言われています。

●アサリの生産量の推移

令和元年のアサリの生産量は20トンとなり、前年に比べ10トン（33.3%）減少しています。

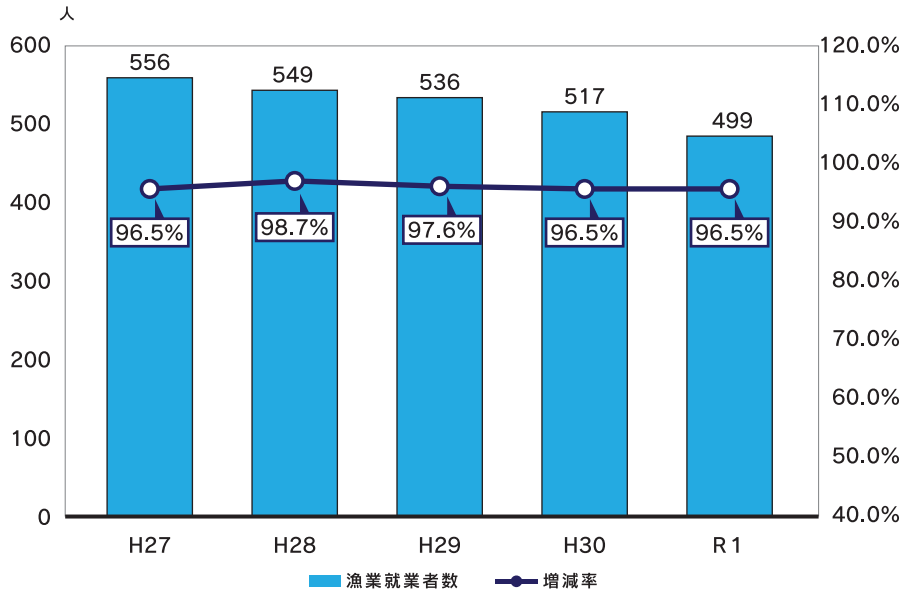


＜基本方針２＞

成果指標に関するデータ

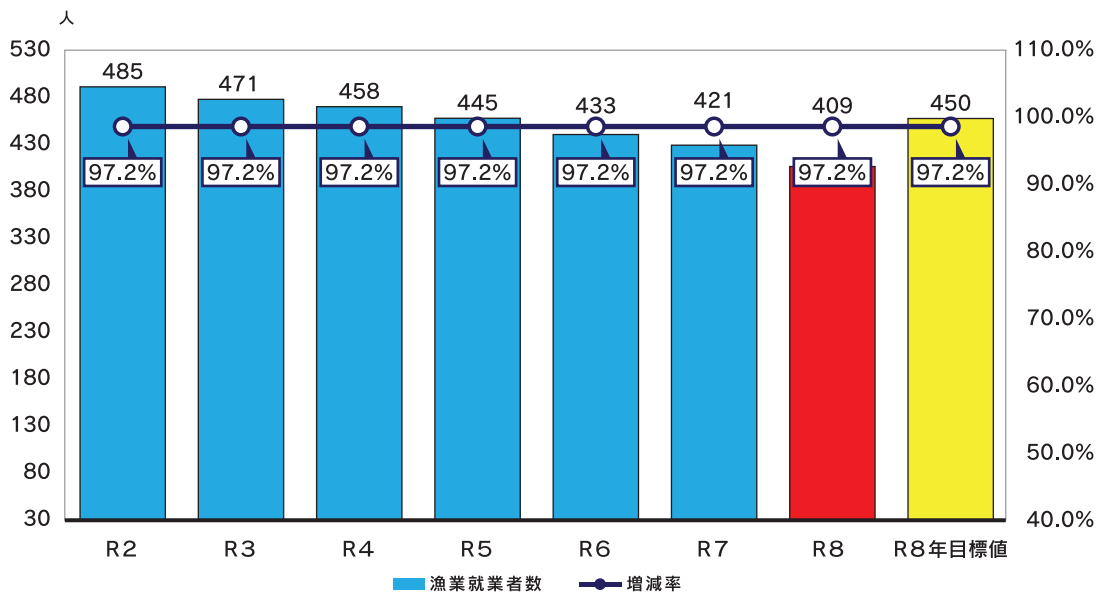
●沿岸漁業の漁業就業者数の推移

令和元年の沿岸漁業の漁業就業者数は499人となり、前年に比べ18人（3.5%）減少しています。



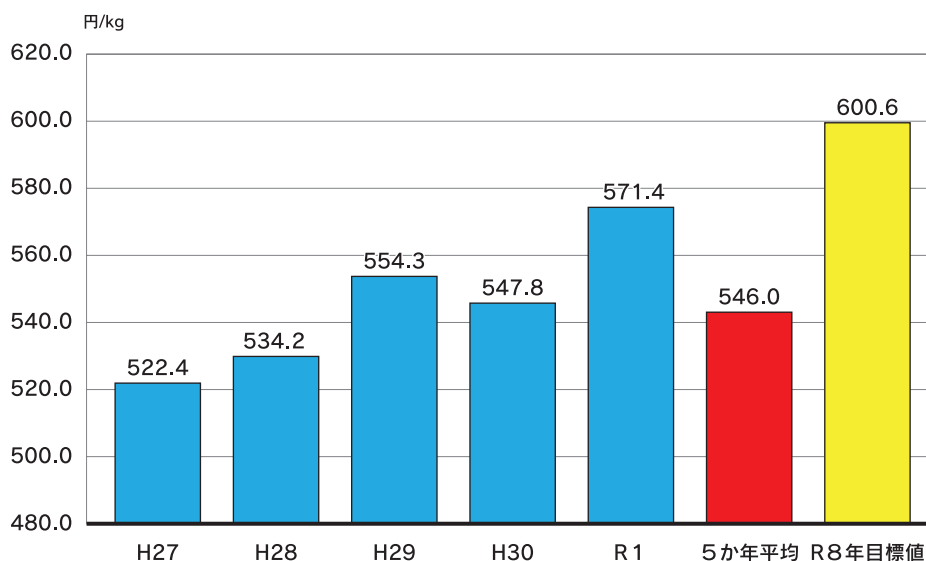
●沿岸漁業の漁業就業者数の令和8年推計値

平成27年から令和元年までの平均増減率は97.2%となり、このまま減少が続くと令和8年には409人になると推計されます。



●魚の平均単価（魚価）の推移

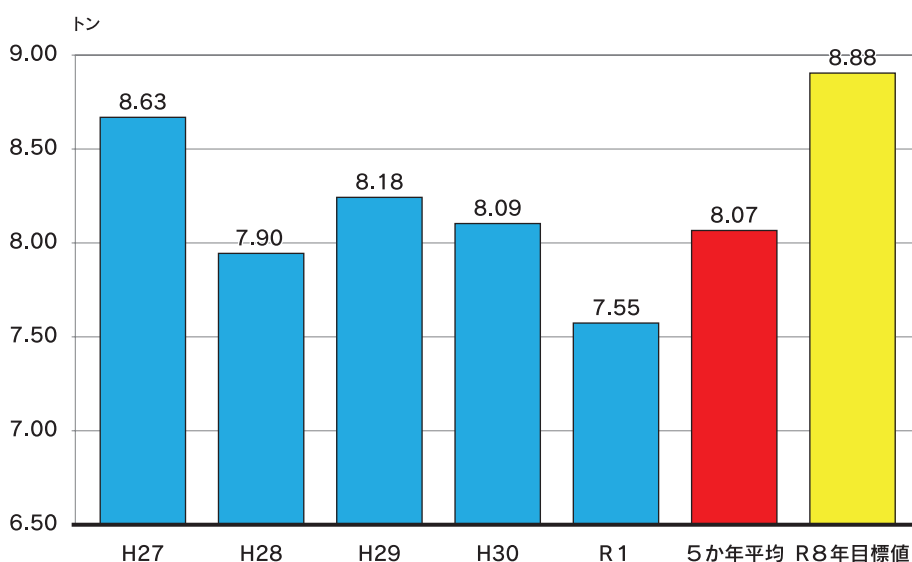
令和元年の沿岸漁業の平均魚価は571.4円/kgで、前年に比べて23.6円/kg（4.3%）増加しています。



※平均魚価の算出方法は、生産額を生産量で除したものの。

●沿岸漁業の1人当たりの生産量の推移

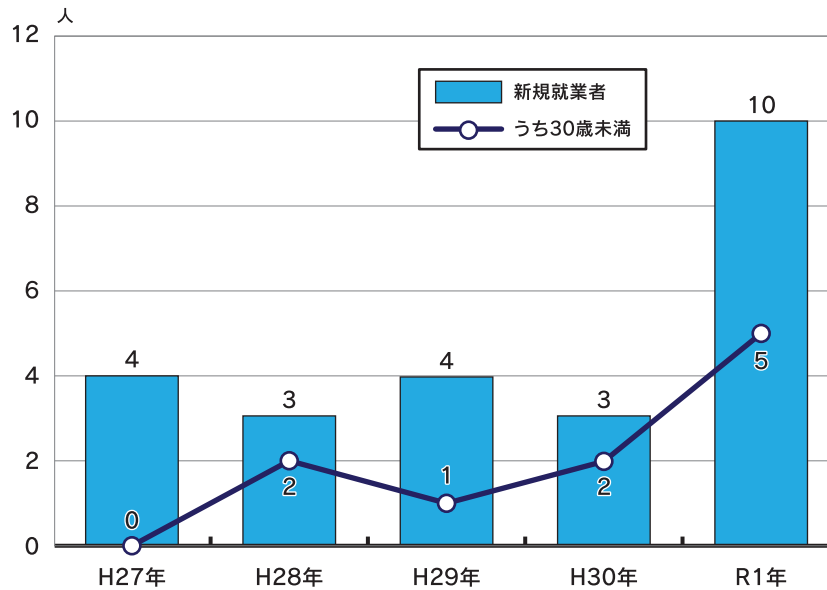
令和元年の1人当たりの生産量は7.55トンで、前年に比べて0.54トン（6.7%）減少しています。



関連データ

●沿岸漁業の新規就業者数の推移

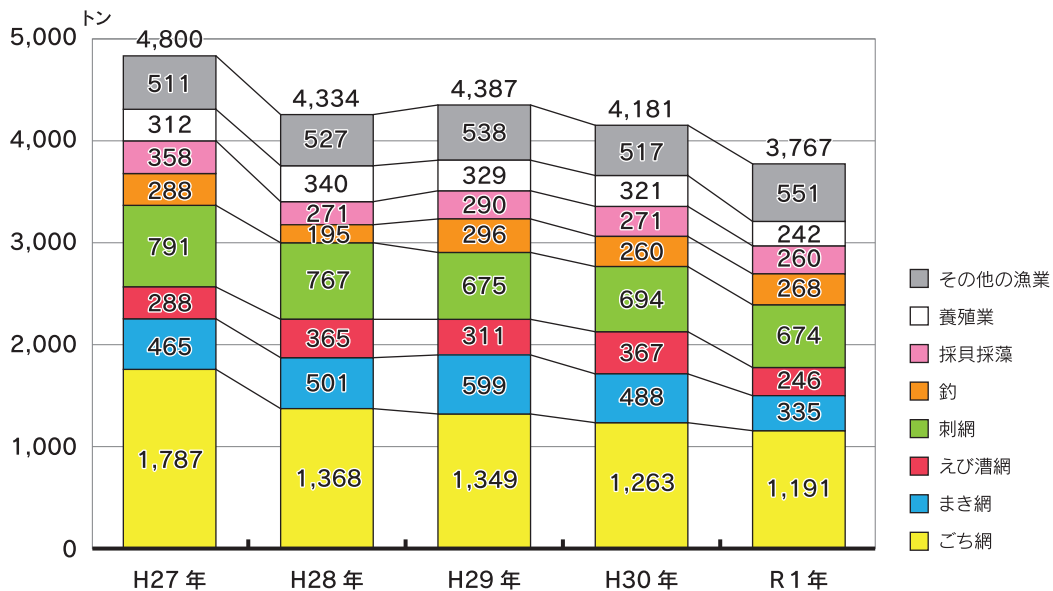
令和元年の沿岸漁業の新規就業者は10人となり、前年に比べ7人増加しています。



資料：漁業協同組合報告

●沿岸漁業の生産量の推移

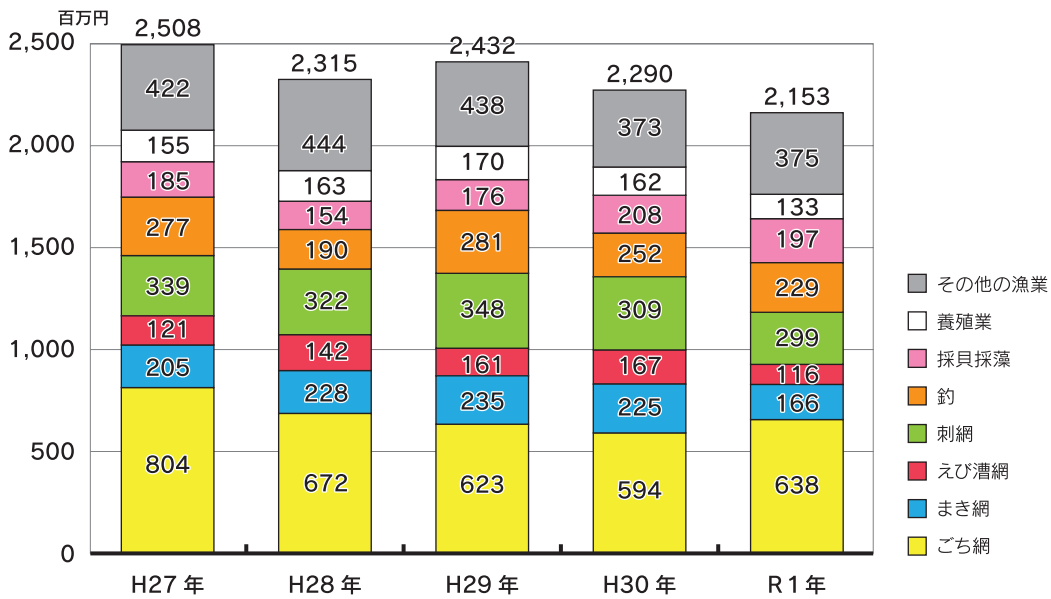
令和元年の沿岸漁業の生産量は3,767トンとなり、前年に比べ414トン（9.9%）減少しています。



資料：漁業協同組合報告

●沿岸漁業の生産金額の推移

令和元年の沿岸漁業の生産金額は、21億5千3百万円となり、前年に比べ1億3千7百万円(6.0%)減少しています。



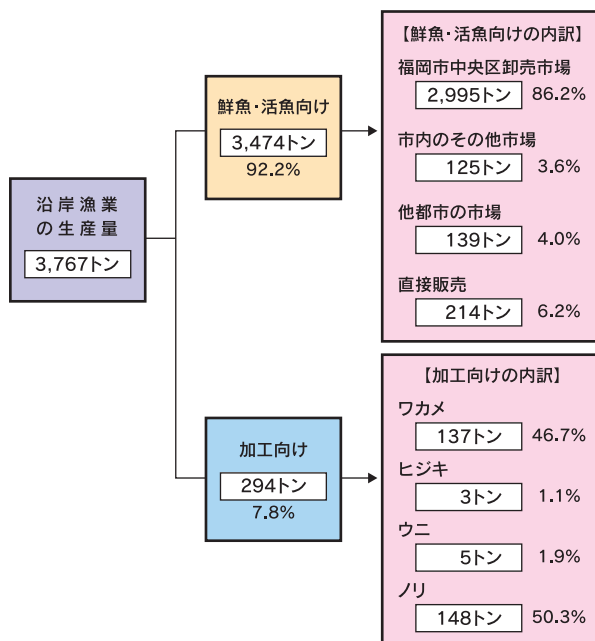
資料：漁業協同組合報告

●沿岸漁業の生産物の流通状況（令和元年）

令和元年に沿岸漁業で水揚げされた3,767トンの漁獲物の流通状況は、鮮魚・活魚向けが3,474トン、加工向けが294トンとなっています。

鮮魚・活魚の出荷先としては、福岡市中央卸売市場に86.2%、市内のその他市場に3.6%、他都市の市場に4.0%、直接販売が6.2%となっています。

加工向けは全量が地元漁協で加工されており、塩ワカメ46.7%、ヒジキ1.1%、ウニ1.9%、ノリ50.3%となっています。

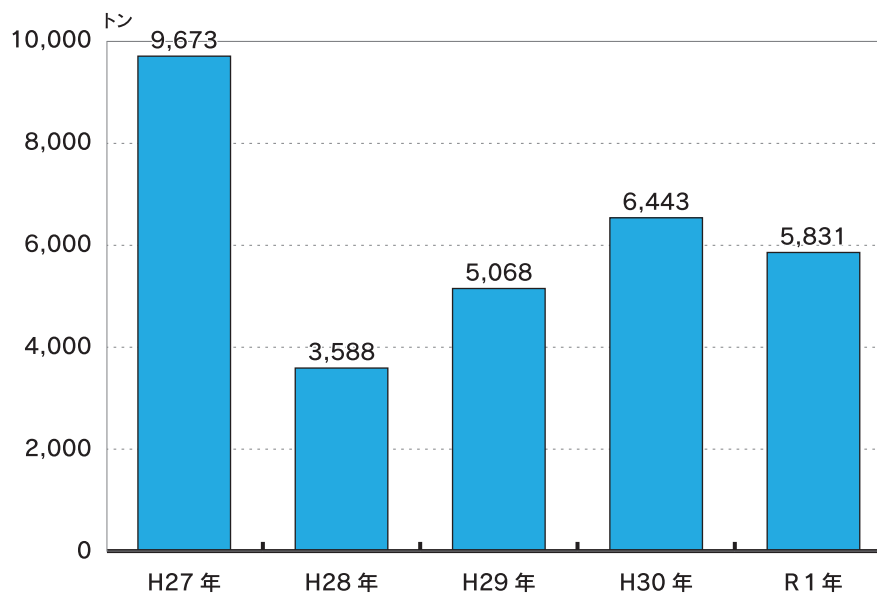


※端数処理のため、構成比の合計が100%にならないことがある。

資料：漁業協同組合報告

●沖合漁業の生産量の推移

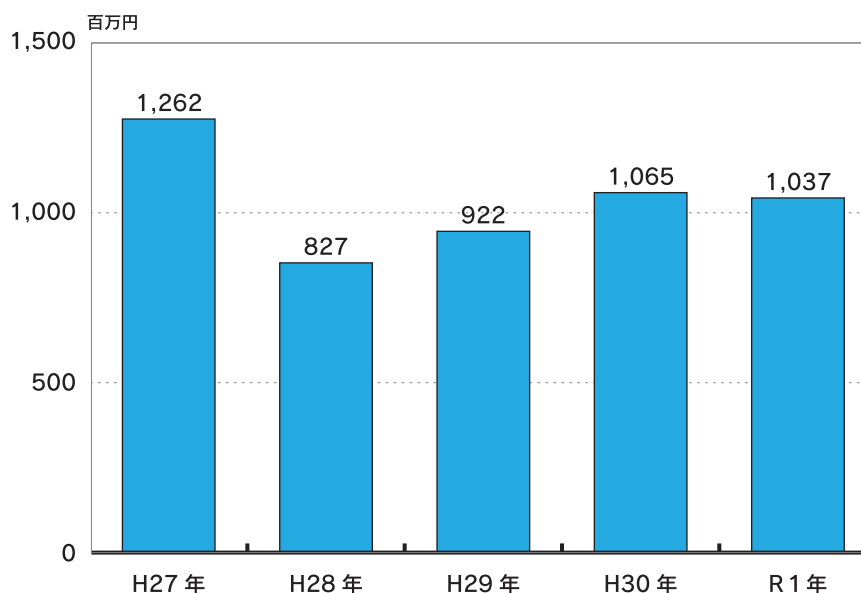
令和元年の沖合漁業の生産量は5,831トンとなり、前年に比べて612トン（9.5%）減少しています。



資料：各業界報告

●沖合漁業の生産金額の推移

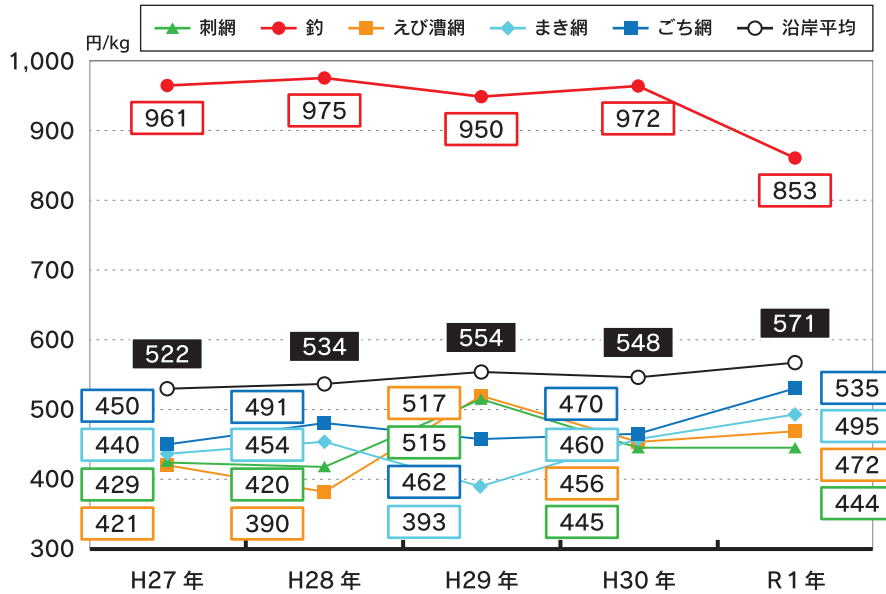
令和元年の沖合漁業の生産金額は10億3千7百万円となり、前年に比べて2千8百万円（2.6%）減少しています。



資料：各業界報告

●沿岸漁業の魚の単価の推移

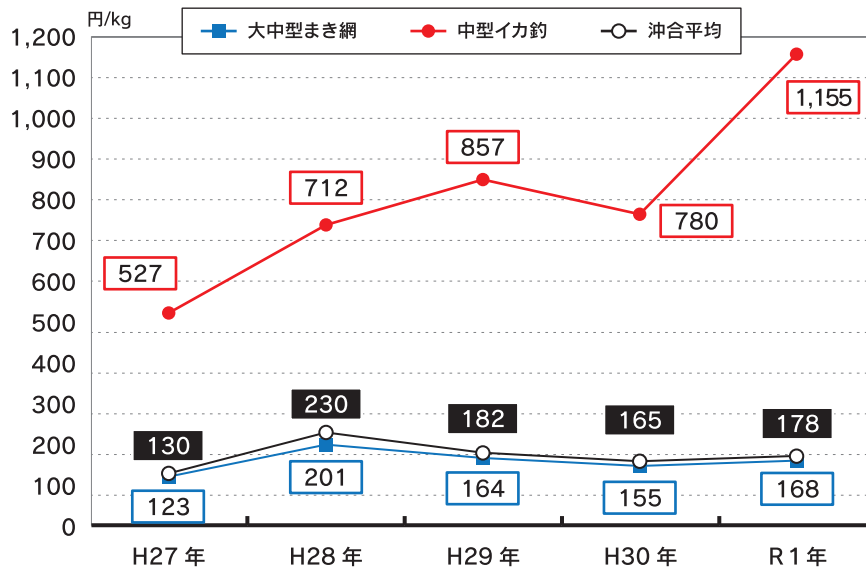
令和元年の沿岸漁業の平均魚価は571円/kgで、前年に比べて23円/kg（4.2%）上昇しています。



資料：漁業協同組合報告

●沖合漁業の魚の単価の推移

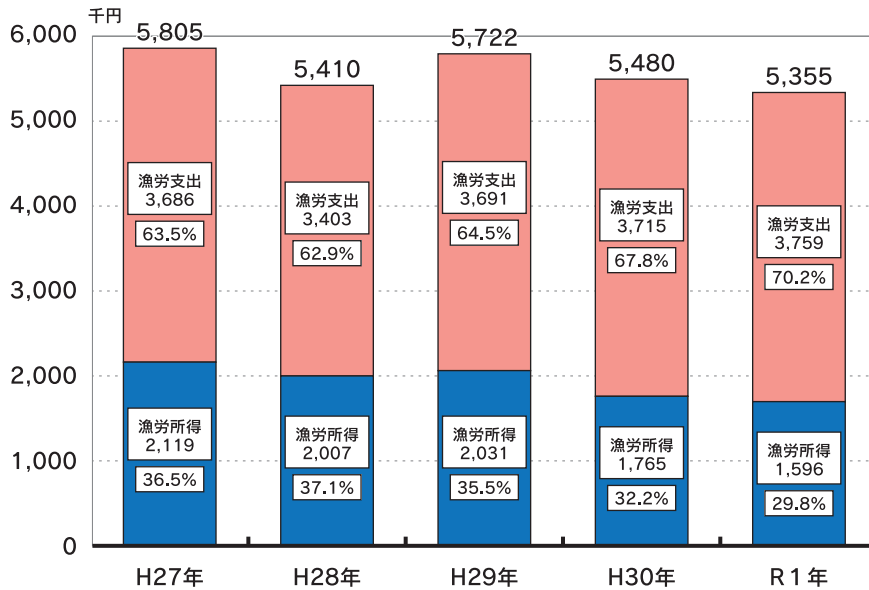
令和元年の沖合漁業の平均魚価は178円/kgとなり、前年に比べて13円/kg（7.9%）上昇しています。



資料：各業界報告

●沿岸漁業の漁労収入推計値の推移（福岡市）

令和元年の漁労収入は5,355千円/戸で、前年に比べて125千円（2.3%）減少しています。



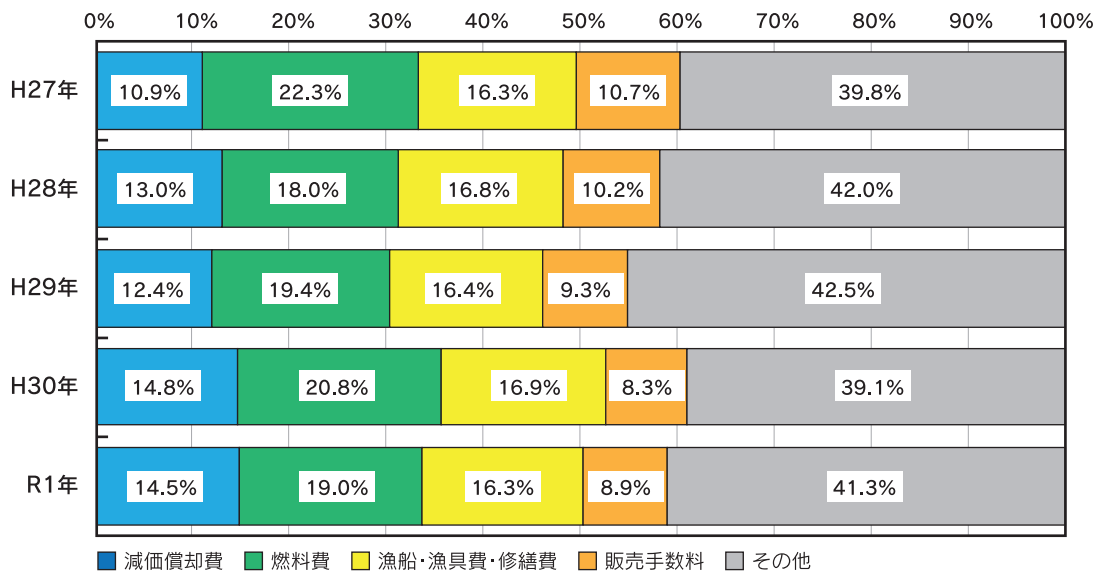
※漁労収入＝総生産額÷漁家戸数

※「漁労支出」及び「漁労所得」の割合は、沿岸漁船漁家（個人経営体）の10 t未満の全国平均による推計。

資料：漁業協同組合報告、水産庁「水産白書」

●漁労支出の項目別構成割合の推移（東シナ海区）

令和元年の漁労支出の内訳は、減価償却費が14.5%、燃料費が19.0%、漁船・漁具費・修繕費が16.3%、販売手数料が8.9%、その他が41.3%となっています。



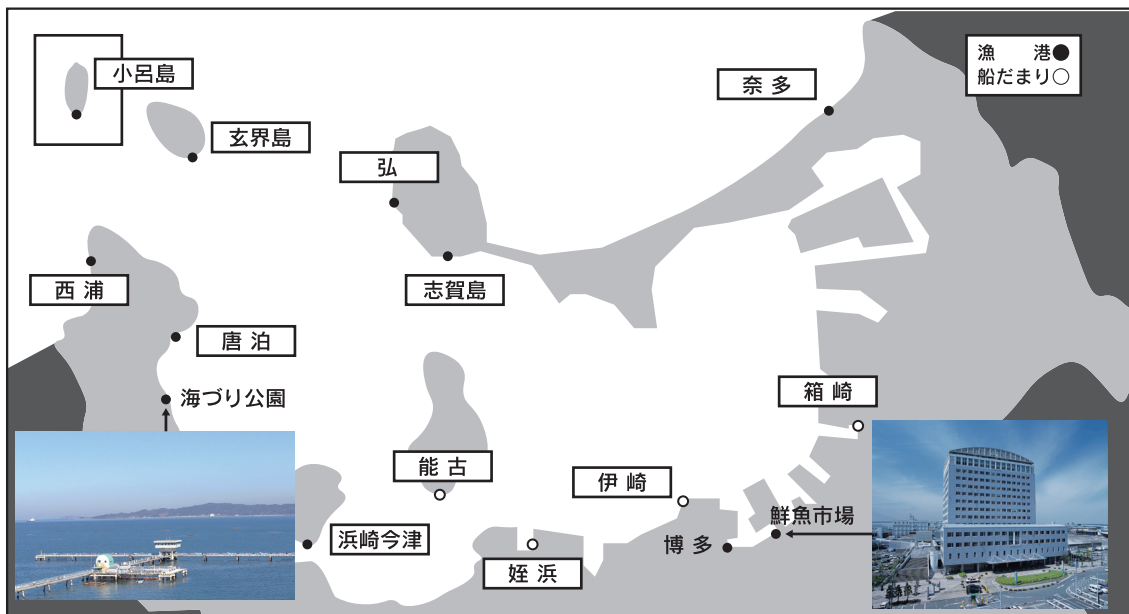
※東シナ海区の個人経営体による漁船漁業の平均。

資料：農林水産省「漁業経営調査報告」

●漁港及び船だまり

福岡市には、全国有数の取扱高を誇る特定第3種漁港の博多漁港をはじめ、沿岸漁業の本拠地として、それぞれの漁業地区に漁港・船だまりが整備されています。

各漁業地区においては、「安全で使いやすい漁港づくり」を推進するために、外郭・係留施設等の改良や老朽化に伴う保全工事のほか、水産鮮度保持施設や共同作業施設などの整備が行われています。



漁港の種類	地 区	管 理 者
第 1 種	弘、奈多、浜崎今津	福岡市（農林水産局）
第 2 種	志賀島、唐泊、西浦、玄界島	福岡市（農林水産局）
特 定 第 3 種	博多	福岡市（農林水産局）
第 4 種	小呂島	福岡県
船 だ ま り	箱崎、伊崎、姫浜、能古	福岡市（港湾空港局）

・漁港漁場整備法第5条（漁港の種類）

第1種漁港：その利用範囲が地元の漁業を主とするもの。

第2種漁港：その利用範囲が第1種漁港よりも広く、第3種漁港に属さないもの。

第3種漁港：その利用範囲が全国的なもの。

第4種漁港：離島その他辺地にあつて漁場の開発又は漁船の避難上特に必要なもの。

・同法第19条の3

特定第3種漁港：第3種漁港のうち水産業の振興上特に重要な漁港で政令で定めるもの。

・港湾法第2条第5項第1号

船だまり：港湾施設である水域施設（航路、泊地、船だまり）をいう。

●令和元年漁業地区基礎データ

支所名	生産構造			漁船勢力			水揚高		主要漁業種	主要魚種	養殖
	組合員数	漁家戸数	漁業就業者数	隻数	トン数	1隻当たりトン数	生産量	生産金額			
単位	人	戸	人	隻	トン	トン	トン	千円			
弘	44	24	39	42	89.26	2.13	158	91,610	採貝 採藻 ワカメ養殖 一本釣	スズキ ヒラメ サザエ ワカメ	ワカメ
志賀島	58	48	50	54	190.78	3.53	269	181,405	定置網 一本釣 ワカメ養殖 カキ養殖	ブリ アジ イカ ワカメ	ワカメ カキ
奈多	18	13	13	27	69.79	2.58	8	5,109	かご漁業	スズキ イカ	
箱崎	17	13	15	29	106.04	3.66	25	12,331	刺網 ワカメ養殖	カレイ アカガイ ワカメ	ワカメ
伊崎	28	23	30	38	152.92	4.02	221	104,531	えび漕網 採藻	スズキ タコ エビ	
姪浜	66	53	63	82	254.30	3.10	651	280,687	ノリ養殖 刺網 一双吾智網	コノシロ スズキ タイ ノリ	ノリ
能古	25	24	25	43	118.16	2.75	55	27,330	刺網 採貝 カキ養殖	タチウオ カキ アサリ	カキ
唐泊	37	27	31	38	146.06	3.84	361	217,977	二双吾智網 カキ養殖	タイ カワハギ カキ	カキ
西浦	64	56	64	56	334.29	5.97	944	545,600	二双吾智網 一本釣	タイ カワハギ イカ	
玄界島	101	89	100	112	451.77	4.03	546	438,179	一本釣 延縄 採貝	ブリ サワラ アワビ	
小呂島	50	32	69	35	255.53	7.30	529	247,916	旋網 刺網	ブリ イサキ ヒラメ	
合計	508	402	499	556	2,168.90	3.90	3,767	2,152,675			

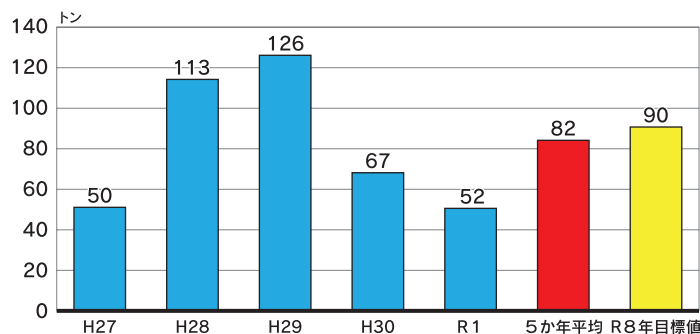
＜基本方針3＞

成果指標に関するデータ

●養殖ワカメの生産量の推移

ワカメ養殖は、弘・志賀島・箱崎の3地区で実施されています。

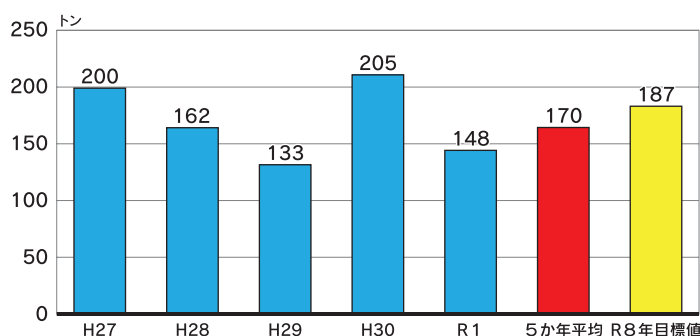
平成27年から令和元年までの5か年の平均生産量は82トンとなっており、平成30年以降は減少傾向にあります。



●養殖ノリの生産量の推移

ノリ養殖は、姪浜地区で実施されています。

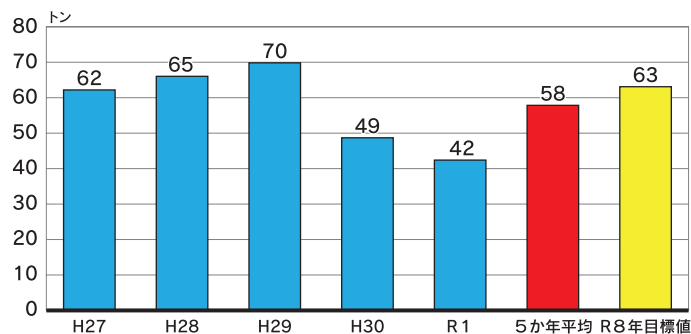
平成27年から令和元年までの5か年の平均生産量は170トンとなっており、近年概ね順調に生産されています。



●養殖カキの生産量の推移

カキ養殖は、唐泊・志賀島・能古島の3地区で実施されています。

平成27年から令和元年までの5か年の平均生産量は58トンとなっており、近年概ね順調に生産されています。



＜基本方針4＞

成果指標に関するデータ

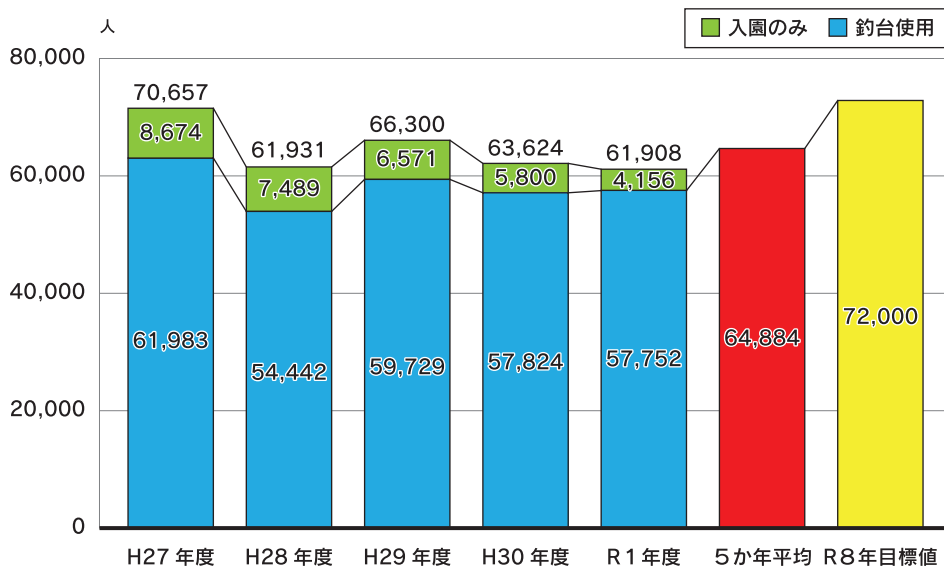
●施設来客者数（令和元年度）

令和元年度の福岡市漁協の関連施設の来客者数は、47,320人となっています。

	志賀島 朝市	弘 夕市	姪浜 朝市	伊崎 夕市	志賀島 センター	唐泊 カキ小屋	西浦 干物通り	SHOP ひろ	合計
来客者数	325	800	1,750	4,650	7,300	25,000	1,255	6,240	47,320

●海づり公園の来園者数の推移

平成27年度から令和元年度までの5か年の海づり公園の平均来園者数は64,884人となり、近年横ばいで推移しています。



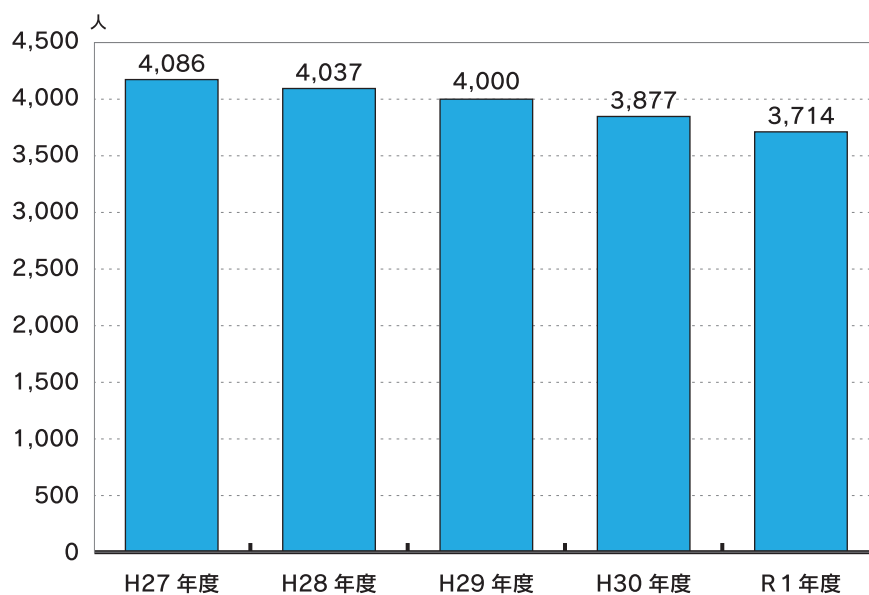
資料：福岡市海づり公園

※海づり公園は、栈橋での海釣りに加え、マダイやアジの海洋釣堀が体験できるほか、釣り教室や釣り大会などのイベントを開催し、初心者から経験者まで、様々な方に釣りを楽しんでもらえる施設となっています。

関連データ

●漁港集落人口の推移

令和元年度の漁港集落人口は3,714人となり、前年に比べて163人（4.2%）減少しています。



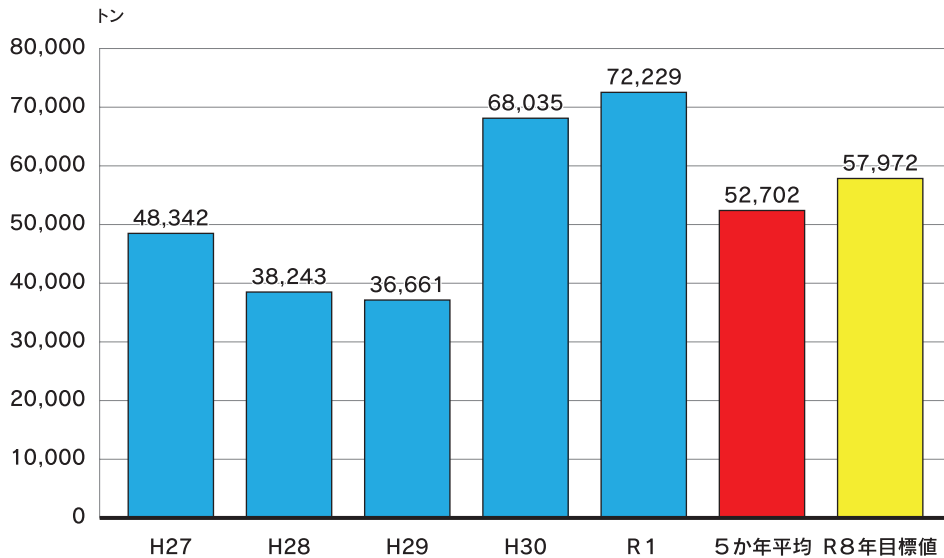
※数値は、弘、奈多、浜崎今津、志賀島、唐泊、西浦、玄界島、小呂島からなる漁港漁場整備法第5条（※P36参照）に基づく漁港集落人口の総数

＜基本方針5＞

成果指標に関するデータ

●水産物の輸出量の推移

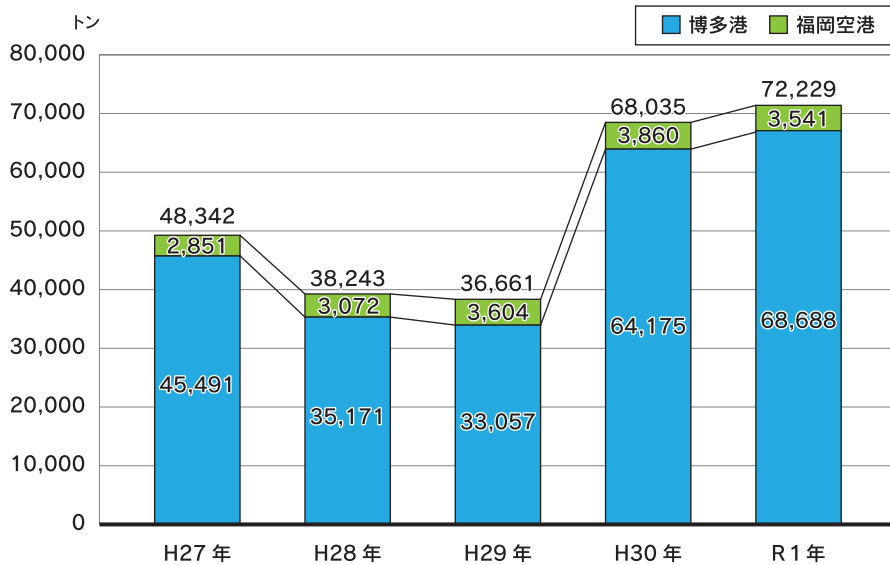
平成27年から令和元年までの5か年の平均輸出量は52,702トンとなっており、近年概ね順調に輸出されています。



関連データ

●博多港及び福岡空港の水産物輸出量内訳の推移

令和元年の博多港及び福岡空港からの水産物の輸出量は72,229トンとなり、前年に比べて4,194トン（6.2%）増加しています。



資料：財務省「貿易統計」

●博多港から輸出されている水産物の内訳（令和元年）

博多港からの水産物輸出量の内、さば、あじなどの冷凍の魚が74.3%を占めています。

区分		割合
魚	生きているもの	0.3%
	生鮮・冷蔵	0.7%
	冷凍	74.3%
	(さば)	(55.5%)
	(あじ)	(4.2%)
	(その他)	(14.6%)
	おろしたものの、その他魚肉	8.8%
	乾燥、くん製等	0.1%
甲殻類・軟体類等	14.6%	
魚介類のかん詰等	1.2%	
合計	100.0%	

資料：財務省「貿易統計」

●福岡空港から輸出されている水産物の内訳（令和元年）

福岡空港からの水産物輸出量の内、生鮮・冷蔵の魚が61.7%、ぶりのフィレなどのおろしたものの、その他の魚肉が35.1%となっています。

区分		割合
魚	生きているもの	1.1%
	生鮮・冷蔵	61.7%
	(まぐろ)	(4.8%)
	(その他)	(56.9%)
	冷凍	0.1%
	おろしたものの、その他魚肉	35.0%
	(ぶり)	(33.3%)
	(その他)	(1.7%)
	乾燥、くん製等	0.0%
	甲殻類・軟体類等	1.0%
魚介類のかん詰等	1.1%	
合計	100.0%	

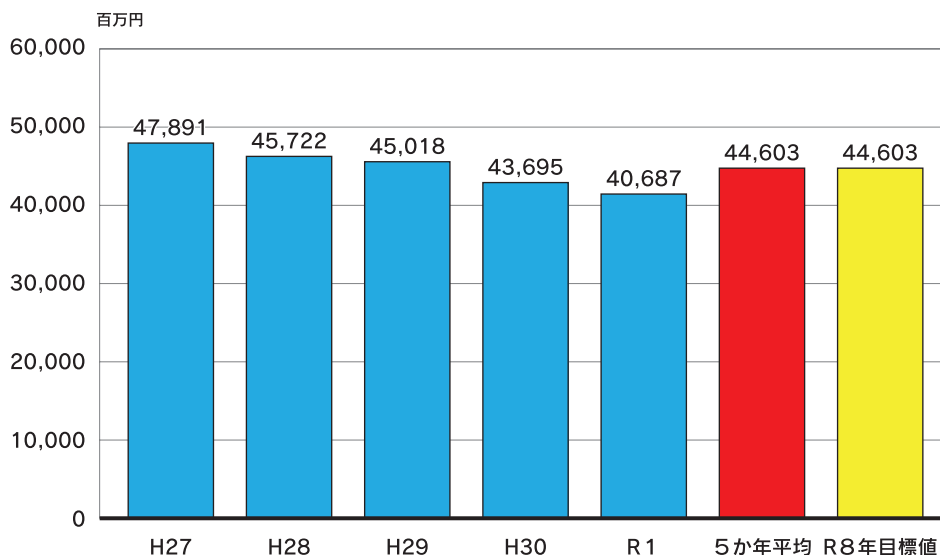
資料：財務省「貿易統計」

<基本方針6>

成果指標に関するデータ

●鮮魚市場の取扱金額の推移

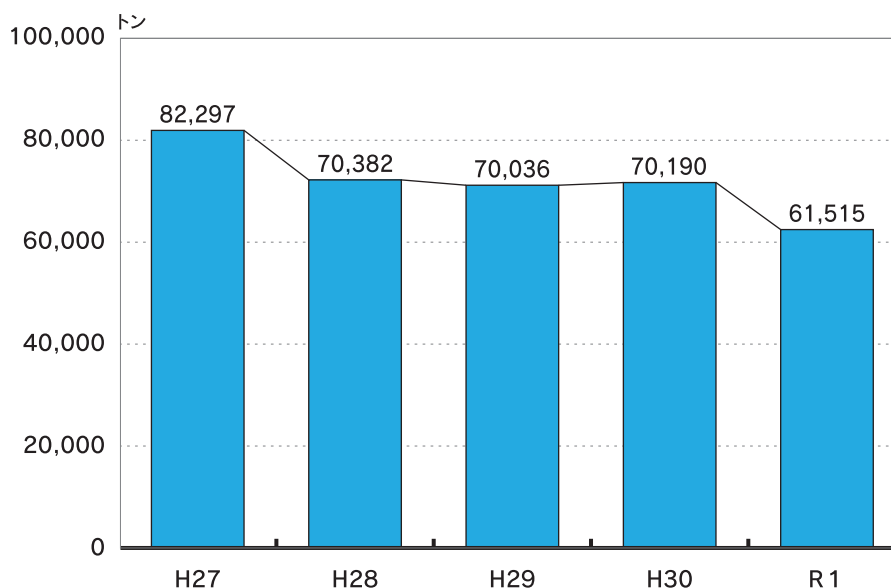
平成27年から令和元年までの5か年の平均取扱金額は446億3百万円となっており、横ばいで推移しています。



関連データ

●鮮魚市場の取扱量の推移

令和元年の鮮魚市場の取扱量は61,515トンとなり、前年に比べて8,675トン（12.4%）減少しています。

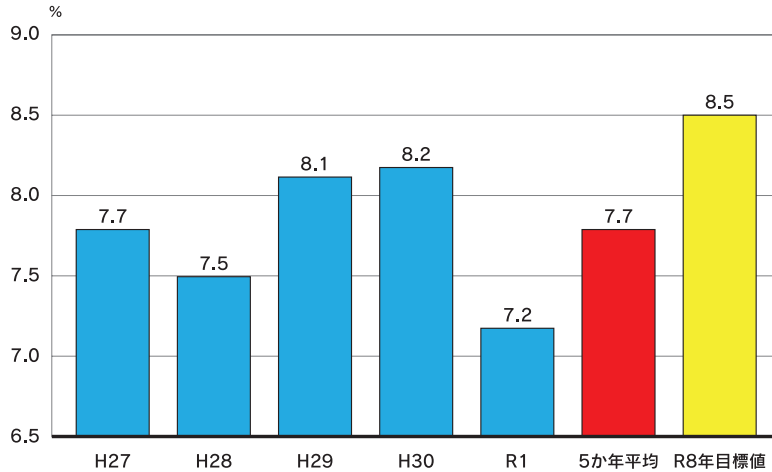


＜基本方針7＞

成果指標に関するデータ

●食料支出にかかる魚介類支出の割合の推移

平成27年から令和元年までの5か年の平均割合は7.7%となっており、令和元年は前年から1ポイント減少しています。

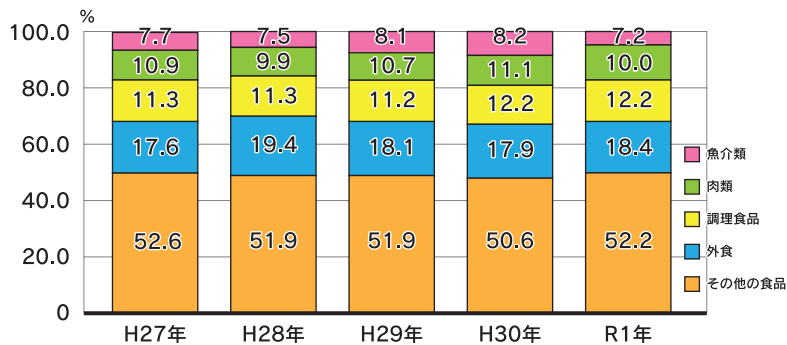


資料：総務省「家計調査年報」

関連データ

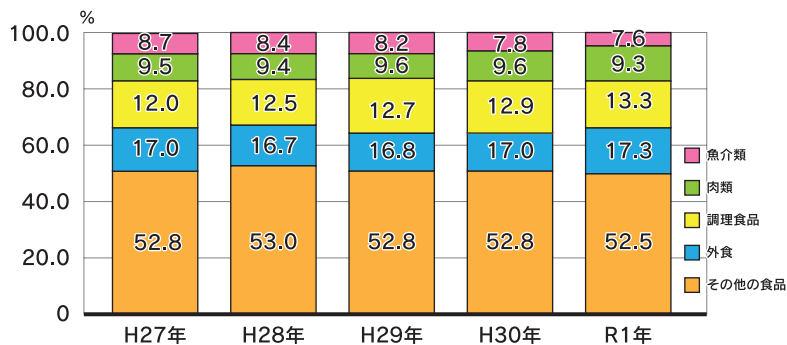
●年間一人当たりの食料支出額に占める魚介類支出額等の割合の推移（福岡市）

令和元年の福岡市の食料全体の支出額に占める魚介類支出額の割合は、7.2%となり、前年に比べ1ポイント減少しています。



資料：総務省「家計調査年報」

●年間一人当たりの食料支出額に占める魚介類支出額等の割合の推移（全国）



資料：総務省「家計調査年報」

●魚食普及・消費拡大の取組み

現在、福岡市や福岡市漁協、各業界団体において、魚食の普及や水産物の消費拡大に向けた様々な取組みがなされています。

魚食普及・消費拡大の取組みとしては、福岡市と農林水産関係団体との共働により生産者と消費者との交流を図る「福岡市農林水産まつり」を開催しています。

また、福岡市鮮魚市場において、市場関係者からなる「福岡魚食普及推進協議会」と連携し、毎月第2土曜日を「市民感謝デー」として市場の一部を市民に開放し、水産物の販売や「こどもおさかな料理教室」を実施するとともに、料理講習会を開催する団体からの申込に対し、鮮魚代等を補助する「料理教室サポート事業」などを実施しています。

学校給食への地元水産物の導入についても、積極的に取り組んでおり、弘わかめ、姪浜ののり製品、玄界島のぶりの切り身・ぶりフライ、小呂島のぶりフレークのほか、令和2年度は、新たに姪浜のこのしろつみれも学校給食に提供されています。

事業名	実施日	備考
福岡市農林水産まつり	毎年秋頃に開催	令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、オンライン開催
鮮魚市場市民感謝デー	毎月第2土曜日 9:00～12:00	鮮魚市場の一部を開放し、水産物を販売
福岡魚食普及推進協議会 による料理教室	毎月第2土曜日 9:00～12:00 (こどもおさかな教室)	市民感謝デーと併せて開催
	不定期 (料理教室サポート事業)	
学校給食への地元水産物の導入	随時	【使用実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・わかめ(弘、玄界島) わかめ、茎わかめ ・のり(姪浜) 味付けのり、焼のり、ふりかけ ・ぶり(玄界島、小呂島) ぶり切り身、ぶりフライ、 ぶりフレーク ・このしろ(姪浜) このしろつみれ、 このしろしんじょう ・たい(西浦、唐泊) たい切り身 ・かわはぎ(西浦) かわはぎスープ

福岡市漁協では、水産物の消費拡大や市民に海や漁業への理解を深めてもらうため「朝市・夕市」などの直販事業を実施するとともに、福岡市漁協ホームページなどを通じて、直販事業のPRや旬の水産物の紹介などの情報発信を行っています。

事業名称	開催日・営業時間	備考
●朝市・夕市等		
姪浜の朝市 (H6.5~)	毎週日曜日 5:30~	開始後、約30分から1時間程で完売
伊崎のおさかな夕市 (H6.9~)	毎週土曜日 14:55~	
弘の夕市 (H7.5~)	5~12月の第2・第4土曜日 14:00~	
志賀島の朝市 (H21.11~)	4~12月上旬の第1・第3日曜日 7:45~	
●直販施設・直販店		
海鮮酒場博多家(ハカタハウス)港座	営業時間 17:30~23:00 (昼営業は予約制) 不定休	詳細は福岡市漁協HP参照 URL: https://fukuokashigyokyo.com/
唐泊恵比須かき カキ小屋(唐泊)	営業期間 11~3月頃 営業時間 平日11:00~17:00 (土日祝は18:00まで営業) 定休日 火曜日、年末年始 (火曜日が祝日の場合は営業)	
西浦ひもの通り		
●西浦さかなまつり	毎年6月に開催	
●漁船でGo!博多湾漁業体験	毎年夏頃に開催	

